

洛窓会 東京支部活動状況

令和4年度 東京支部代表幹事 富士フィルム株式会社 郡 順一 (64回卒)

令和4年度 東京支部総会報告

1. 開催状況

日時：2022年7月4日(月) 16:00~20:00
開催方法：対面とオンラインの併用
出席者数：49名(対面：24名、オンライン：25名)

2. 総会

1) 洛窓会東京支部長挨拶

住友化学株式会社 取締役副社長 上田 博 様

対面コミュニケーションの効果があらためて見直される中、洛窓会も一部ではあるが対面式の支部総会を3年ぶりに開催できたことに対して謝辞を述べられた。また京大化学工学卒業生の横のつながりを大切に活躍することへの期待を述べられた。



2) 講演会

講演1 「VUCA時代に求められる国際マネジメント」

ContiTech Japan Ltd, Continental AG (株)
代表取締役副社長 PILGRIM Axel 様

VUCA時代には、未来の予測がますます難しくなり、組織の形態もさらさら変わってくる。ポジティブなVUCA (Vision, Understanding, Clarity, Agility) が大切だと考える。最も必要なのは「明確な方向性を持ち、実行に際しては柔軟性があること」だ。企業の組織や人員の面では、あらゆる変化に対応し、鍵となるステークホルダーを素早く見つけ、ジレンマ間の最適解を見つけ出すような新しいタイプの「敏捷性のあるリーダー」を育成することが大切である。このような人材の育成について、「創造的な研究活動の中で培われる創造的精神の涵養」が教育の伝統である京都大学への期待は大きい。



予測が困難な時代における組織で、どのように自分を変化させて成長していくかを考えさせられるご講演であった。

講演2 「微粒子ハンドリングを変える着想」

京都大学大学院工学研究科 化学工学専攻
松坂 修二 教授

様々な手法での微粒子のハンドリングについて、実際の粒子の動きを動画で紹介しながらご講演頂いた。サブミクロン、ナノオーダーの微粒子ハンドリングでの大きな障害の一つとして付着力がある。付着力に対

抗する手段であり、一時的ではなく、常時働く外力として、「振動」に着目した。与える振動の位相や粒子径が異なることによる挙動の違いや、エアポンプを使用せずとも粉体層内部の空気を用いる事で粉体を操作している大変興味深い事例を紹介いただいた。さらに、電場を加える事で粒子が飛び跳ねるように輸送される様子もご紹介いただいた。



「粉の気持ち」の理解に努め、粒子自ら動きたくなるように仕向ける、「遊び心」を大切に進めてこられた研究であり、改めて研究への興味・好奇心の大切さを考えさせられるご講演であった。

3) 京都大学と化学工学教室の近況

京都大学大学院工学研究科 化学工学専攻
河瀬 元明 教授

京都大学と化学工学教室の近況についてご講演を頂いた。京都大学は、2022年に創立125年を迎え、様々な記念事業が取り組まれており、湊総長のもとでバックオフィス改革が進めている。コロナ影響でオープンキャンパスはオンラインで開催するなどしているが、講義は工夫を施しながら基本的に対面で実施している。



化学工学教室としては、化学プロセス工学コース希望者は、配属人数に対して希望者が上回っており、成績上位者が化工を希望、配属される傾向が続いており喜ばしい状況にある。授業の中で取り組まれている「Chem-E-Car (決められた仕様制限の中で、化学反応で駆動する車を制作し、決められた量の水を決められた距離運ぶことを競うコンテスト)」では見事、優勝グループを輩出したことも紹介された。

また、コロナ禍の影響で延期になっていたR1~R3年度学生に対する工場見学は、見学先企業の多大な協力により、遅ればせながら実施できる予定。学部卒業生はほぼ修士課程に進学し、有名企業への就職する状況が続いている。

4) 次年度代表幹事・洛窓会会長ご挨拶

日本製鉄株式会社 坂本明洋様から来年度代表幹事を務めるに当たっての抱負が述べられ、次年度の総会への参加が呼びかけられた。

続いて、洛窓会会長 田門 肇 名誉教授から、講演者の皆様、参加各位、および運営関係者への謝意が述べられた。また、学生が対面交流を通じて学ぶ機会の創出に対する大学側への期待を述べられた。最後に代表幹事から参加者全員への謝意を述べ、お開きとした。



自己紹介をして頂いた。しばらく歓談の後、洛窓会会長 田門肇名誉教授の挨拶、洛窓会幹事長の松坂先生に閉会の挨拶をいただきお開きとした。

4. 総評

対面とオンラインを併用した初の総会であった。年代を問わず、多くの方にご参加頂き、盛会の内に終えることができた。

運営面では、化学工学教室には、洛窓会オンラインシステムの出欠確認への活用、大学のZoomアカウントの使用等、多大なるご協力をいただいた。また支部幹事会社である住友化学の協力を得て設営、案内、受付業務などの事前準備、進行を行った結果、無事に終えることができた。

5. 会計報告

昨年度からの繰越金を活用し、従来と同様に懇親会費を低く設定することが出来た。繰り越した予算は、次年度以降の支部総会に有効に活用させていただく予定である。

6. 最後に

ご多用の中大変示唆に富んだご講演をご準備いただいた Axel 様、松坂先生、河瀬先生に心よりお礼を申し上げます。また、初めての試みである対面とオンラインを併用した支部総会の開催にあたり、洛窓会本部の諸先生方（田門先生、松坂先生、渡邊先生、殿村先生、村中先生）、支部幹事会社代表の方々に多大なご助力・アドバイスを頂戴しました。心より御礼申し上げます。

以上

3. 第二部 懇親会

1) 挨拶および乾杯

東京支部副支部長・(株)神戸製鋼所
副社長執行役員 森崎 計人 様

2) テーブル毎で自己紹介

3) 中締め挨拶 洛窓会会長 田門 肇名誉教授

4) 閉会挨拶 洛窓会幹事長 松坂 修二教授

懇親会会場は食事席と懇談場所を分け、さらに食事席、懇談場所とも会話中はマスク着用を徹底し、感染防止に努めた。懇親会は、東京支部副支部長・(株)神戸製鋼所の森崎様のご挨拶と乾杯のご発声で開会した。今回も世代間交流促進を目的に懇親会の最初の 20 分間程度を自己紹介タイムとし、指定の各テーブルで

